
アーマード・コア4 ~The parallel~

エクスプロワ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アーマード・コア4 ～The parallel～

【Nコード】

N1632P

【作者名】

エクスプロワ

【あらすじ】

国家解体戦争の最中、深手を負った記憶を持たない伝説のレイヴンは、彼女と出会い、新たな機体と共に幻想と現実が交差する戦場を翔る。これは、AC4SSであってAC4SSでない。奇妙な戦記が幕をあける。やる夫風ネタ作品です。純粹なAC4SSが読みたい人、キャラ改変やキャラ崩壊が嫌いな方はそのままどってください。

f a i l (前書き)

どうも、ガンアークです。

このSSはAC4をベースに色々な改変やキャラの置き換え等を加えた半オリジナルと言ってもいい代物です

純粋なAC4SSが読みたい人

キャラ改変やキャラ崩壊が嫌いな方は、そのままもどってください。

廃虚と化した都市の一角で一機のACが、一体のACらしき機体と対峙していた。

ACは、灰色の角ばったフレームは見るも無惨に各所で内部機構を露出させ、右腕を喪失しており、武装も左腕に装備したライフルしか残っていないかった。

そして、ACらしき機体は、流線型のF1カーを連想させるコアに今まで見たことがない流線型の昆虫の複眼を連想させるカメラアイを取り付けた頭部等ACのパイロット、レイヴンにとって見たことがないパーツと武装で構成された機体で、唯一分かるのはその機体が両手にライフル系の武装、右肩に榴弾砲、両肩にフレアを装備していることだけであった。そして、ACモドキは全くの無傷だった。

ACモドキの周りには無数の残骸が転がっていた。それは元はレイヴンの仲間が乗っていたACだった。

？「レイヴン、報酬を払う国家も仲間を失ってなお、抵抗を続けるのか？」

レイヴン「当たり前だ。降参するくらいなら、敵を道連れに死ぬのがレイヴンだ！」

レイヴンはACモドキからの音声通信を一方的に切るとのブースターを吹かせて、距離を取りつつ、ACモドキにライフルを撃とうした。

？「無駄だ！」

レイヴン「!？」

しかし、ライフルを撃つ前に、ACモドキは一瞬でレイヴンの駆るACの眼前まで距離を詰めた。

そして、レイヴンのACがライフルを撃つより早く、ACモドキが左腕に持つ鋭利な形状のライフルの先端がレイヴンのACを貫いた。

？「伝説級のレイヴンとはいえ、ネクストを駆るリンクスには勝てない」

ACモドキ……ネクストのリンクス《パイロット》はネクストを操作し、突き刺したライフルをACから引き抜いた。

その瞬間、ACのカメラアイから光が消え、仰向けに倒れた。

リンクスは、ネクストの外部スピーカーを起動させ、こう言った。リンクス「感傷だが、別の場所で会いたかったぞ。」

リンクスは、言い終わると動かなくなったACに背を向け、ブースターを吹かし、その場を離脱した。

レイヴン「私は生かされたのか……いや、このままだと死ぬな。トドメを刺さなかったというのが正確か」

レイヴンはパイロットスーツからじみ出るおびただしい血と体に刺さっている鉄片を見て、苦笑いを浮かべた。

このままだと、周りの残骸と化したACに乗っていた仲間と同じ運命を辿るであろう事は確実だと分かっていた。

彼は、死ぬ事自体はレイヴンとして戦い始めた頃から覚悟していた。

しかし、彼は「無念だ」と心の底から思っていた。

何故なら、彼の望みである「記憶を取り戻す事」がもはや叶わないと悟ったからだ。

彼は過去の記憶を全て失っており、記憶を取り戻す事が唯一の望みであった。

レイヴン「最後まで自分の記憶を取り戻せなかったな」

レイヴンは意識が遠のき、死神がすぐそこまで来ていると思った。

？「……まだ、生きているわ。ナハシユ、早く救護班を」

彼が意識を失う直前、突然、ACのハッチが開き、鈴のような声が彼の耳に届いた。

f a l l (後書き)

今回の初登場キャラ

レイヴン、アナストリアの傭兵

このSSの主人公で、原作では好色皇と呼ばれていたあの方で、アニメでは小山力さんが声優をしていました。

他のキャラは、次の機会に

このように、基本的にAC4のキャラのほとんどを他の作品のキャラに置き換えています

後、作品内のレギュレーションはゲームのをそのまま使わず、ACFA1.40をベースに変更を加えたSS専用レギュレーションを採用しています。

LINKS

レイヴンを倒したリンクスは、戦場となった廃虚都市内ををネクスト、シュープリスで移動しているとコックピット内に取り付けられているディスプレイに通信が入った事を示す表示が現れ、彼は通信装置を起動させた。

それと同時に年老いた男性の声が《彼の頭の中》に響いた。

？「聞こえるか、ベルリオーズ」

リンクス「なんだ、ジャック・O？」

ジャック「国家連合部隊の残党は、君とメリー・ハーンが倒した連中で最後だ。これで企業連合パックスの憂いは完全に消えた」

ベルリオーズ「そうか、労いの言葉を言う為に通信を繋げたのか？」
ジャック「いや、ナンバーマッチが行われる事が決まった。君には多額の褒賞金よりこっちの方が嬉しいだろう」

ジャックの言葉にリンクス……ベルリオーズは笑みを浮かべながら言った。

ベルリ「確かに、他のリンクスと戦えると思うと笑いが止まらないよ」

人口爆発による、食糧及びエネルギー資源の慢性的な不足などによって、国家は統治能力を低下させ、それに伴い各地でテロ行為や暴動が頻発していた。

経済システムが存亡の危機に陥るに至り、新しい秩序の構築を目指すレイレナードグループの会長ジャック・Oに同調した五つの巨大企業グループが史上空前の大規模クーデター、国家解体戦争を引き起こした。

この戦争に企業の切り札として投入されたのが、最新鋭の技術を導入した「ネクスト」と呼ばれる新型ACである。アイマード・コア

国家はこの三十機足らずのネクストを前に、なすすべもなく壊滅していった。

かつて、戦場の主役であったハイエンドACとそれを駆るパイロット、レイヴンはネクストによって駆逐され、姿を消した。

ある通信記録

「どうやら、皆揃ったようだな」

「いや、まだレイレナードが来ていない」

「チャットのパスワードを忘れたのかな？」

「それはないだろう。ウツホ、おまえじゃあるまい」

「物忘れの多い食人烏ね、GAのリンクスはバカばかりかしら？」

「うにゅ!？」

「メアリー、今の言葉は、聞き捨てならんぞ。」

「あら、私は事実を言っただけよ。牛さん」

「う、牛……」

「メアリー、今のは失言だぞ」

「あら？ 例の事件で住処を追われた人の姿をした化物を化物とよんで何が悪いの？」

「そこまでだ。文句があるなら、明日のナンバーマッチで白黒つければいいだろう」

「明日、たっぷりといたぶってあげるわ」

「すまん、遅くなった」

「ようやく、代表が全員揃ったな」

LINKS (後書き)

今回の初登場キャラ

ジャック・O、オリジナル「レイレナードグループ会長」

NX系に登場するジャック・Oと同じようにレイヴンだったが、あの任務で負傷し、レイヴンを引退。

振興企業レイレナードの社長となり、後にレイレナードグループ会長を兼任。

彼は東方勢とも深くかかわっております。

sally

コロニーアナトリア。

ARMS研究で、最先端に行くこのコロニーは、ARMS研究の第一人者の死と技術の流出により、財政難に陥っていた。

その状況を打破するべく、アナトリア代表、ソウイチロウ・ナハシユは、新たな財源として、リンクスを傭兵として派遣する傭兵業を行う事を決め、ある男に白羽の矢を立てた。

その男こそ、戦場で、九死に一生を得たレイヴンであった。

アナトリア郊外にあるARMS研究施設の地下に設けられているネクスト専用ガレージには一体のネクストが置かれており、そのネクストの側にレイヴンと一人の女性、戦場で死にかけていたレイヴンを救ったフィオナ・フェルミナートが立って、ネクストを見上げていた。

フィオナ「本当に、いいの？」

レイヴン「構わないよ。あのまま、埋もれていたら死んだ仲間達にいい笑いにされてしまうからな」

笑いながら言うレイヴンをフィオナは心配そうに見ながら言う。

フィオナ「でも、あなたのARMS適正は低いわ。最悪、ARMSの負荷で廃人化する可能性もあるわ」

レイヴン「心配するな。こう見えても体と神経は頑丈だ。そう簡単にくたばらないよ」

心配そうに言うフィオナを見ながらレイヴンは、笑いながら答えるとネクストにのりこんだ。

彼の新しい愛機となるネクストは、ARMS技術試験用に企業が

ら提供されていた物でベースはローゼンタール社標準機であるオーギルをベースに、腕部をレイレナード製のアーリアに、頭部をレオーネ製のテルスに換装、内装もメインブラスターをレオーネ製の持続型に、サイドブラスターをレイレナード製の高出力型に、バックブラスターをGA製の通常推力重視型に、オーバーブラスターをオームル社製の軽量型に換装している等本来の仕様から大きくかけ離れた物であった。

武装も右腕にローゼンタール製通常型ライフル、左腕にメリアス製標準レーザーライフル、背中にMASC製近接信管型ミサイル発射筒、オームル製強化型散布ミサイル発射筒、コア左側にオームル製小型レーザーブレードを格納する等あらゆる企業のパーツや武装を装備した継ぎ接ぎだらけのネクストであった。

??「聞こえるかね、レイヴン？」

レイヴン「ああ、聞こえているよ」

レイヴンは、ネクストのコックピットの中の通信機から聞こえる初老の男性の言葉に答えた。

男性はレイヴンが答えると少し、間を置くと続けていった。

??「今回のミッションは計画都市グリフォンを占拠するテロリストを排除だ。」

レイヴン「テロリストの排除……レイヴンの依頼としてはありきたりだな」

??「これはパックス、特にグリフォンの復興を計画しているパックス最大の企業、GAにアピールするには絶好の機会だ。状況は出来上がっている後は君次第だ。よろしく頼む」

レイヴン「任せてくれ、ナハシユ」

レイヴンはそう言って、通信機を止めると通信機とは別のスイッチを押した。ARMS接続開始のスイッチだ。

押した瞬間、体にすさまじい違和感をレイヴンさんは感じたがレイヴンは歯をくいしばって耐える。

。「ファイオナ」作戦領域に到達。レイヴンさん、出撃準備を」

レイヴン「いつでも出撃可能だ。」
ファイオナ「分かりました。投下準備」

ファイオナのアナウンスが頭の中で響いた瞬間、輸送機のハッチが開いた。

彼の愛機であるネクストは輸送機に吊り下げられるような形になり、高層ビルが立ち並ぶ都市がネクストのメインカメラを通じて見えた。

それを見たレイヴンはこう叫んだ。

レイヴン「トウスクール、出撃する！」

この瞬間から、リンクス傭兵、ハクオロは戦場に舞い降りた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1632p/>

アーマード・コア4 ~ The parallel ~

2011年1月8日23時16分発行